

CONTENTS

文化人の本音 河合雄雄文化庁長官対談 第39回 ゲスト 島蘭 進さん ●東京大学大学院人文社会系研究科教授
日本人と宗教性4
長官コラム 文化庁の抜穴11

連載	いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 39 江戸東京たてもの園(東京都).....18
	芸術文化の風 3 コミュニティシネマとは(佐伯知紀)19
文化庁 支	著作権 Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 3 著作権にはどんな権利があるの? 人格的権利20
	文化交流使の活動報告 15 井上廣子(造形作家)21
	伝達地区を見守る人々 伝達歳時記 15 温泉津のお薬師さんまつり(島根県温泉津町)22
	史跡を楽しむ 3 市民参加による集落の復元(秋田市)24
	言葉をもつめる 3 表現法の地域差 朝のあいさつの表現.....25
	地域からの「文化力」発信 3 第29回全国高等学校総合文化祭のテーマは 「青春の夢 青い森かけめぐり 文化の虹ときらめいて」.....26
	文化人 in 関西 関西元氣文化圏で活躍する人々 3 映像もリアルな現場もプロデュース 由堅太郎さん(奈良県)28
	風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 15 臣の郷からの文化の発信 体で学ぶ、汗して学ぶ29
	日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者鑑 44 西村和記(表具用刷毛製作)30
	国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 27 古筆をみる31
日韓友情年事業紹介 2 開幕式に続く多彩な事業.....32	
文化審議会に、国語に関する大臣諮問.....33	
平成16年度(第27回)文化庁舞台芸術創作奨励賞33	
平成16年度(第55回)芸術選奨34	
イベント案内	京都国立博物館 特集陳列 長樂寺創建1200年記念 歴代遊行の軌跡39
	東京国立近代美術館 フィルムセンター 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎39
	奈良国立博物館 特別展 古密教 日本密教の胎動40
	東京国立近代美術館 工芸館 子ども工芸館 動物とあそぼう41
	京都国立近代美術館 小林古径展42
	国立西洋美術館 ドレスデン国立美術館展—世界の鏡43
	東京文化財研究所 第17回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会44
	新国立劇場スポットライト45
	7月の国立劇場46
	芸術文化振興基金ニュース47

特集 日本人の宗教観をめぐって	解説 宗教法人制度の概要 資料 宗教統計調査 寄稿 宗教法人を取り巻くもの	大石 眞 15	宗務課 14	宗務課 12
	新国立劇場スポットライト45			
	7月の国立劇場46			
	芸術文化振興基金ニュース47			
	題字デザイン 桑山弥三郎			

今月の表紙 平成16年度文化庁賞上優秀美術作品 版画『WINDS WORK-30』佐竹邦子作

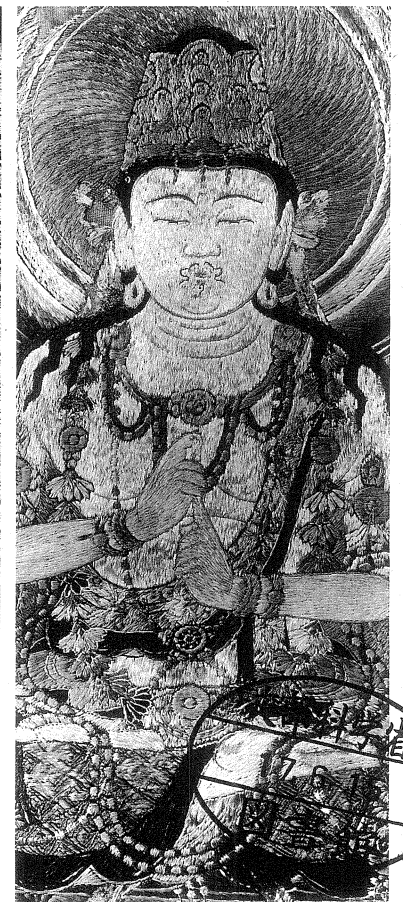
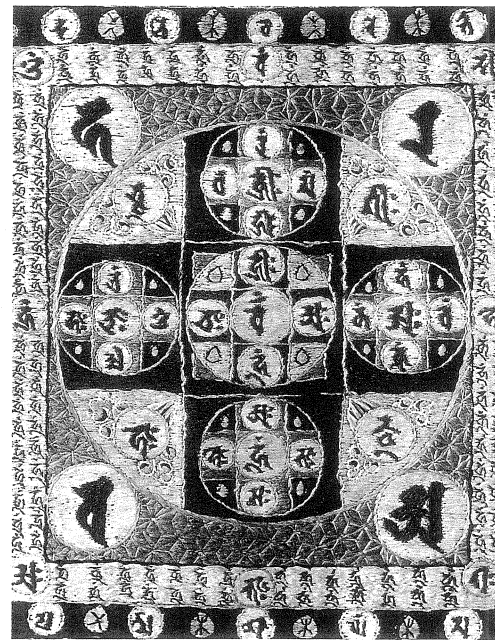
日本の美術

●監修
独立行政法人 国立博物館(東京・京都・奈良・九州)
独立行政法人 文化財研究所(東京・奈良)
●定価1,650円(税込)

No.470

繡 仏 伊藤信二

付論 ◆ 髪繡について



古代インドに始まり、中央アジア～中国を経て日本に伝来した刺繡で描かれた仏像は、七世紀初頭から近世にいたるまで連続と営まれてきた。現存する諸作例を、古代・中世・近世に区分して紹介。また、日本に伝来する中国の繡仏も取り上げた。未紹介のものや従来ほとんど目の向けられなかった近世の作例も多数掲載。

〒162-0812 新宿区西五軒町4-2

至文堂

TEL 03 (3268) 2441 (営業)
FAX 03 (3268) 3550

日本人と宗教性



日本人の宗教性

河合 日本人は無宗教という説がありますが、外国から言われたりするんですが、先生はどんなふうにご考えられますか。

島蘭 これは言葉の使いようというところがありますよね。一面では無宗教というものが当たっていると思うんですが、ある面では非常に信心深い。初詣などに行きますと、今年も湯島の天神様に参りましたら、一時ごろごろになると、ずらーつと外の通りまで、おそらく何百メートルと列が続いて、参拝を待っている。それはだいたい若い方でした。ああいうのを見ると、とても無宗教とは言えない。そんなことを思ったりします。

河合 本当に見方が分かれるんです。外国の心理学者が来て、日本人の生活を見ると、むしろ宗教性が深いと言いますね。

島蘭 もう一つは、死者との近さの感覚でしょうね。自分の家の中に仏壇があつて、毎日のように向かい合う。日本人にはそれを宗教とは言いたくない人もいるけれども、宗教的と言ってもおかしくないという気がいたします。

河合 そうですね。だから、私はこのごろ、「宗教性」ということで、「宗教」とちよつと分けた言い方をしているんです。「宗教」という場合は、誰が教祖であるとか、経典や戒律があるとか、教会があるとか、そういうのでできてきているけれども、人間の本来の「宗教性」というのは、さつきおっしゃったように、死んだ人とか、つまり、日常性を超えたものとの関係を大事にする。それを「宗教性」と呼べば、日本人は非常に「宗教性」があるんじゃないか。そしてそうした「宗教性」を日常生活に上手に組み入れていたのだと、ともすれば特定の「宗教」は必要ないとも思われているんじゃないかなと私は思っているんです。

島蘭 「宗教」という言葉が、長官が言われたような特定の宗教というふうな意

味をもった言葉になってしまっているのですね。「宗教性」という意味で使えればいいんですけども、そこに居心地の悪さというか、日本人はこれまで「宗教」という言葉と何かうまくいっていないという気がしております。

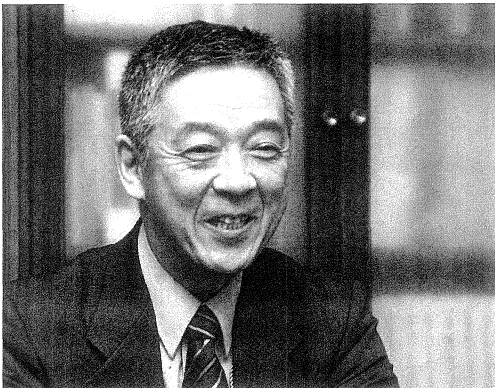
河合 宗教というと、ややもするとさくさくとか思ってしまうのには、生活面では宗教的に生きていくという、その辺の矛盾があります。これは外国人にも、説明するとだいぶわかりますけど。

アメリカの先住民のナバホ族を訪ねたときにおもしろかったのは、非常に敬虔な生活をしておられて感激したので、「支えている宗教は何ですか」と聞いたんです。そしたら、「我々の言葉には宗教という言葉はありません」と言いましたものね。つまり、生きていくことが宗教なんだから、わざわざ言う必要はないのだと。これを聞いて、日本もどちらかというと、そつちに近いなと思いました。

島蘭 キリスト教圏では、クリスマスや日曜日には教会がいつぱいになります。でもふだんは一所懸命ビジネスをやつて

しまぞの・すすむ
1948年東京生まれ。

東京外国語大学講師、東京大学文学部宗教学科助教授を経て教授となる。専攻分野は近代日本宗教史。我が国の新宗教など、現代世界の宗教運動の比較研究等に取り組む。著書に『ポストモダンの新宗教——現代日本の精神状況の底流』（東京堂出版）などがある。総合科学技術会議生命倫理専門調査会メンバーとして、クローン法案やES細胞の研究利用に関する指針づくり等にも参加。東京大学21世紀COEプログラムでは、「生命の文化・価値をめぐる『死生学』の構築」の拠点リーダーを務める。日本宗教学会賞等を受賞。



いる。それに対して先住民の方たちは、生活全体が自然と親しみながら、敬虔なものを育んでいるということでしょうね。現代人はそういうものにもう一度郷愁を感じているのかもしれない。

東アジアの中の日本

河合 そうですね。近代から現代にかけての日本人の宗教、宗教性ということについては、まただいぶ考えなければいけませんね。

島園 近年は、東アジアの共通性ということが、自覚されてきています。宗教研究の中でも、従来は欧米との交流が主でしたが、最近は東アジアの研究者同士の交流が盛んになってまいりました。

河合 わりあいと共通性をもっているということですね。

島園 世界の多様性を知ると逆に、文化の近い人たちで共通のものを自覚しはじめる。漢字や儒教や大乘仏教を共有して

れているとおりで、だから極楽へ行くんだけとか、そう簡単にいかんでしょう。

島園 もちろん偉い宗教者や伝統教義も参考になるのですが、自分の身近な知り合いの人がふと言ったようなことが印象に残る、という傾向があるような気がしますね。

河合 私はだから、個人主義というのは大変なことなやと。みんなで生きていくときは、みんなで死生観を共有しているから安心ですけど、個人主義になったら、個人で考えねばならない。これは大変なことですね。

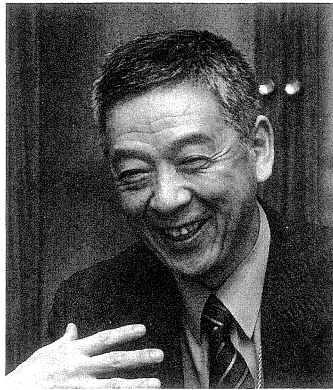
島園 自由で、何でも自分らしいほうに進めていけるといって、いいような気がしますが、逆に責任があるし、負担も大きい。そういう苦労から、逆に混乱してしまう人もありますね。

河合 それこそ臨床心理学者のところに訪ねてくる人の背後に、その問題はいろいろありますね。悩みが多いのは、子どもの不登校や夫婦仲とかなんですけど、ちょっとそれが深まると、死生観になっ

ているにもかかわらず、どうしてこんなに違うのか。それはとてもおもしろく、刺激的なことなので、そこから非常に大きなエネルギーが出てくるような気がします。

河合 三月に国際的な宗教学会をされましたが、中国、韓国からも来られたのですか。

島園 中国、韓国など東アジア全部を合わせた一〇〇人ぐらいでした。これまでだと、仏教や儒教の研究者の交流はありましたが、もっと広く宗教全般となると、はじめてでしょう。参加者全体では六二か国から約一八〇人で、この種の



は、私は宗教家ではないから、答えはないんです。一緒に考える力はある、というやり方でやっているんです。

島園 それは安心しました。私も宗教学者なので、時々、宗教家に求められるようなことを聞かれたり……(笑)。

河合 先生に聞けばわかると思われるのでしよう(笑)。下手をすると、こっちが答えをもっているように思われるんですね。我々は答えがないけど、一緒に考えましようというその態度は、すごくはつきりしています。

とはいえみんな、答えを見つける力がありますね。感激しますよ。ある昔者で、かわいそうに不幸がいろいろ重なった人がいたんです。「私のような人間が何でこんな不幸になるのか。結局、神さんも仏さんもいないんだ」と言うんです。その話をずっと聞いてたんです。何回か会っていると、これだけわけのわからないことが起こるといえるのは、神さんがいるということだと言いましたよ。人間が考えて全部答えが出るんだったら、神さんは要らんとはいけません。人間が勝手に考える

会議としては、とても多くの国から来てくれましたね。

河合 お互いをもっと対話して、東アジア全体として考えていくという意味では、今度の会議は大変意味がありましたね。

死生観と臨床心理学

島園 最近では、宗教そのものよりも、死生観を勉強したいという人が、増えてきたように思います。死生というものは、宗教とも深くかわりますが、もっと生活に密着した、誰でも考えざるを得ないような、そういう関心がある。しかし、難しい教理とか、組織で何かやるというのは、自分にはちよつと縁遠いと思う人が、最近では多い。

河合 よくわかりますね。日本が経済的に成長していつているときは、死生の中の生ばかり考えていましたからね。どうして儲けるかとか、どうして生きるか。ところが、豊かになってきたところで、みんな死のほうに関心が出てきて、死生観が大事だというふうに、今、わりと認識されてきているんだけど、先生が言わ

ことよりも、神さんはそのもう一つ上をいつてるんだ。だから、私のような不幸があるということは、神さんがいるということだと。もう感激しましたね。こういう考え方はちゃんと昔からありますけどね。

島園 それはすでに、宗教の一番深いところに入っていますね。

河合 そうです。悩みをとことん聞いてたら、自分でその答えを言うてこられるわけです。こちらは、「はあー」って感心していればいいわけですからね。

島園 たぶん長官がそうやって「はあー」と感心しておられるということが、相手の大事な言葉を引き出すことになっていると思うんですけれど。私から見ると、そういうやりとりそのものが宗教的なものが生きているということ、答えがはつきりしているのが、必ずしも宗教的とは限らないという気がいたします。

河合 だから、こっちは答えを知らないのに、割と落ちついて(笑)話を聞いてるんですけどね。しかし、本当に悩んだ人というのは強いと思いますね。

「スピリチュアリティ」の視点

河合 最近、先生のところ、宗教学をやりたいという学生が増えてるんじゃないですか。

島園 一九九五年のオウム事件の後は、宗教という言葉だけで、何か危ないという事で、一時期ちよつと減りました。哲学に行く人が増えました。その後また宗教学に来る人が増えてきております。物事を根本から考えることが必要だというのが、オウム事件の時代の一つの認識だったのかなと思うことがあります。

河合 だから、今のほうが日本人は宗教に抵抗が減ってきて、考える態度が出てきているんじゃないですか。ただ、実はみんな困ってるんですね。既成の宗教をそのままボンと信じるわけにいかない人にとっては、誰と話をし、誰から学んだらいいのか、困るという状況でしょうね。

島園 そこで、死生観もそうなんですが、もう一つとてもはやってる言葉は、「スピリチュアリティ」です。これも日本では一〇年以上の歴史があると思います。

宗教にはあまり惹かれなれし、関心もないけど、スピリチュアリティと言われると、興味がわいてくる人が結構いると思います。スピリチュアリティについて学ぼうとして、実は宗教がもっていたものの中に入っていく人も増えていきます。

河合 スピリチュアリティを先生はどう訳しておられますか。

島園 一時は「霊性」と訳しておりました。ただどうも若い人が自由に使う言葉にならないような面がありまして、今のところカタカナで書くことが多いです。

河合 私もカタカナで言っているんですが、WHOも健康の定義の中に入れてきた。これは大変なことですよ。

島園 医療の方面でも、認識が変わってきました。ターミナルケアやホスピスの問題、それから心身相関について。いずれも体を治すには心が大事と考える。それは宗教というよりも、スピリチュアリティという言葉があてはまりそうです。

河合 それこそ欧米でしたら、病院にたくさん牧師さんとか、神父さんが行っているわけですが、日本はうっかりお坊さ

んがいくと、そこが難しいですね。だから、スピリチュアリティという言葉でみんな考えていけば……。

島園 お坊さんが病院に行くのも今まではタブーだったんですが、これも変化するかもしれません。ビハラーというのがでてきて、仏教系のホスピスですね。

河合 もともとそれは、それこそ仏教の根本にあつたわけですからね。

島園 アジア諸国では、ごく自然に仏教教団が病院を営んでいます。日本の近代仏教も、イメージが変わってくるかもしれません。それは先生がなさっておられる心理療法とか、精神医学などではかなり早くからですね。

河合 ええ。随分早くからやっています。ただ、自分が答えを簡単にあげられないというその自覚は大事ですけどね。

文化の伝統と宗教

河合 最近になってますます家庭の在り方が大事になってきましたね。それこそ家庭が文化の継承をしているわけだから。

島園 しかし、文化を伝えたり養った

する場所としての力が、だんだん弱まっているという気がしてならないです。

河合 それは地域社会もそうです。

島園 そのかわりにインターネットなどが出てきています。どんな情報が入ってくるので、賢くなったような気がするけれども、本当に文化を育てる場所になるのかどうか、今後の大きな問題ですね。

河合 大きい問題ですね。

島園 本当の深いやりとり、人同士がともにいるという経験も積まないといいけないんじゃないかと思えます。

河合 去年、上智大学の学長をしてもらって、今、パチカンにおられるピタウ神父と話をしたんです。さっきのような家庭の話をしたら、いや、ヨーロッパでもそれほどみんなキリスト教を信じていない、だから家庭環境が大事だと思うと、非常に強調しておられましたね。

島園 しかし、家庭に期待をかけすぎると、家庭がかわいそうだなとも思うんです。

河合 大きい期待をかける、こつちができんことをやれというのはね。



島園 かわりにいろんな交わりの場所、例えばボランティアなどが出てくるのは、逆にほかの場所がないから、人がそこへ集まってくるということなので、一つの新しい文化の形かもしれません。

河合 そうですね。そこで人の交わりができるし、それこそ人と人が深く交わり出すと、スピリチュアリティが出てくるわけですから。

島園 最近の動向として、世界的に目立つものに巡礼があります。日本でも四国遍路がありますが、全部歩きとおすという若者が増えたり……。

河合 これはまさに世界的と言っている

ですね。今度、熊野の参詣道が世界遺産になりましたからね。「道」ですよ。

島園 ヨーロッパでも、マリア様の巡礼地が、最近では以前よりも人が来るよう、やっぱ精神的な求めがあるんじゃないかという気がしますね。巡礼の特徴は、いろんな人が集まってきて、それぞれ、ある意味では孤独だが、その中で交わりができて、また別れていく。そして、そこで経験したものが一生の宝になる。

河合 肩書きなしでパッと人が会うわけですからね。確かにすばらしいですよ。日本の場合、それこそ宗教の巡礼以外に、奥の細道をもう一遍歩くとか、そういうのもおもしろいかもしれません。

島園 一時は海外旅行が非常に人気があったが、近年では少し飽きてきたというか、あまりに観光地化されていて、深い心の慰めにつながらない。日本の国内は身近すぎてつまらないような気がしていたけれども、今後、国内の観光をとおして文化、歴史、伝統に親しむというか……。

河合 僕は文化観光ということをや

いるんです。上つ面だけの観光はみんな飽きてくるんだから、もっと文化的な深さのある観光を考えればいい。まさにその中にスピリチュアリティとか、宗教性ということがかかわってきますよね。

若者と宗教性

島園 若い人の中には、ある意味ではお金さえあれば何でも得られるという状況の中で、非常に早い時期から精神的な価値の欠乏や渴望を感じているんじゃないだろうかという気がします。

河合 そこでとてもおもしろい例があったんです。スクールカウンセリングがはじまったところに、先生がいくら言うても茶髪をやめない子を来させたんです。

カウンセラーとしゃべってたら、その子が急にパッと威儀を正して、「先生はどういう目標をもって自分の人生を生きておられますか」と言うんです。カウンセラーはびびりくりして、「いや、それはすごいことをあんたは考えてるんやな。私も考えてるけど、今ここで簡単に一言で言えないから、そういう話を二人でしよ

うやないか」ということで、話しに来るようになるんです。その子は、自分はこういう話をしたくて仕方ないのに、同級生も先生も全然しない。高等学校の受験とか、サッカーの選手がどうかとか、そんなのばかり言ってる。私はひとり違うことを考えてるということ明らかにするために、髪を染めたんだということを書いたそうです。

その話が段々と深まっていったら、普通の髪になるんですよ。「先生と話し合うようになったら、染める必要がなくなった」と言ったそうです。すごいですね、やっぱり。だから、中学生でも考えてる子はいらるわけです。ところが、普通では話に乗っていけないんですよ。

島園 その辺りは本当に文化の貧しさみたいなことになってしまってますね。文化を養う場として、アメリカならば教会、日本だったら家族とか、地域社会があった。ところがそうしたネットワークがだんだん貧弱になってきて、そのあとにどういふふう文化をつくるか……。

河合 まさに芸術なんか、そういう役

島園 おもしろいのは武道をやった人が、宗教学を勉強しにくるんです。合気道とか、剣道とかにある精神的なものから、宗教を考えてみようと思つたとか。もう一つは演劇ですね。演劇の中に日常性を逸脱するものがあるので、彼らも宗教に通じていると感じる。

河合 武道から入るといのはおもしろいですね。

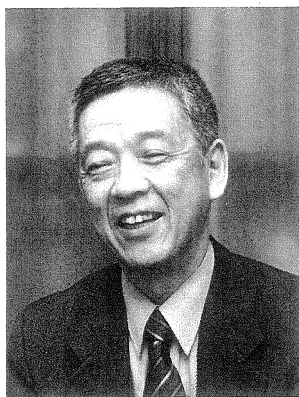
島園 宗教とは、ある意味では深いものを身に付けるということなんだともい

ます。逆に言うと、成長の過程で、普通にマスメディアに囲まれて生きてると、身に付くものがない。そういうことを若い人は感じてるんじゃないか。

宗教の未来

河合 日本の未来に対して、宗教はどんな役割を果たすと考えられますか。

島園 近代文化が宗教を軽んじてきたこととは否定できません。今後は、前向きに進んでいくだけでなく、過去のもの



割を果たすと思ってるんです。全国高等学校総合文化祭へ行くとかよくわかりますけど、ものすごい表現力ですよ。あれだけの自己表現には、まさしくスピリチュアリティを感じます。

島園 若者のポップ音楽ですね。駅前の広場で、みんなの前で演奏してる若者がいますが、そういうのはスピリチュアルなものを感じますね。

河合 みんながワッと道を囲んできて、のっていくというね。昔の辻説法なんかあいうところから始まっていくわけです。考えてみたら、茶道とか、「道」がついているわけだから、お茶飲むにしろ、花生けるにしろみんな「道」ですよ。

いかに多くを負っているかを、自覚することも重要だと思います。それは同時に、世界の多様性の認識と結びつく。自分たち固有のものを強く認識すると同時に、他者との違いも認識する。そういうことを考えていくときに、宗教は非常に大事です。その意味において、文化の中で宗教の重要性の認識がますます高まってくるんじゃないかと思っています。

河合 どうもありがとうございます。

国際化時代の研修

文化庁の抜穴 河合隼雄

ある有名企業から研修の助言者として依頼された。研修といっても講義をして帰ってくるだけではあまり意味がないのでお断りすることが多い。ところが、これはまったく異なり、朝一〇時から午後四時まで、私の著書をもとにグループごとに研修したことを発表し、それに企業の幹部がからんでコメントし、バトルを展開。それにも加わって欲しいと言つたのである。

そんなことならと意気込んで参加したが、確かにその甲斐があった。私が日本の神話をべ

スにして、日本の「中空均衡型」と欧米の「心統合型」と比較して論じていることがテーマになるが、感心したのはありきたりの学説の紹介などでなく、「この考えでゆくと我が社は」とか、「欧米人と交渉したり協調したりするときに」とか、きわめて具体的な考えが述べられ、それに対して幹部の人は容赦なく突っ込みを入れる。国際化の時代。企業もこのように文化差の問題を考え、厳しい研修を積むのだ、と大いに感心した。

◆長官対談◆
【文化人の本音】河合雄雄文化庁長官対談
米澤 傑 鹿児島大学大学院教授
【長官コラム】文化庁の抜く

◆特集◆
文化財建造物の環境保全

【巻頭言】
文化財建造物の防災対策と環境保全
【解説】
重要文化財(建造物)の環境保全、
四〇年の歩みと今後の課題
【事例紹介】
高良大社における地滑り対策
日光二社一寺における危険木対策
【寄稿】
環境保全から景観保全へ……矢野和之
【施策紹介】
重要文化財(建造物)耐震診断事業

◆文化庁ニュース◆
平成一七年春の叙勲、褒章受章者 ほか

◆編集後記◆

文化庁業務課では、宗教法人法に基づく宗教法人の規則の認証事務や宗教に関する資料の収集などを行っています。宗教法人法は、宗教団体に法人格をえ、自由で自主的な活動をするための財産や団体組織の管理の基礎を確保することを目的とする法律です。宗教法人法の特徴として、所轄庁の関与を最小限に抑える認証制を採用することにより、各宗教法人の自主性、自律的な運営を最大限に尊重するとともに、責任役員制度や公告制度などによって、宗教法人の責任・公共性を明確にしています。

今日、価値観が多様化し、社会の構造が急激に変化するなか、人間としての在り方や生き方が問い直され、心の豊かさが求められています。また、多様化の時代にあつて異文化や異なる価値観を理解するということも求められています。このような社会状況において、宗教の重要性の認識だけでなく各宗教団体の活動に対する関心や期待も、ますます大きくなると思われまふ。各宗教法人においては、宗教法人法の概念・目的を踏まえた適正な管理・運営が求められるとともに、文化庁としても、宗教法人制度の適正な運用に努め、国民から信頼を得られるよう努力を重ねていきたいと思ひます。(宗)

◆連載◆
【ぎょうせい】ニジウム美術館・博物館事業レポート
松本市立博物館
【芸術文化の風】
いってみよう！演劇編
【著作権O&A】著作権なるほど(問答)から
【著作権】はどんな権利があるの？(財産的権利)
【文化交流使の活動報告】
河村晴久・能楽師
【伝建地区を見守る人々】伝建地時記
【多様な表情のある懐かしいまち】
【史跡】松代城跡 附新御殿跡
【言葉をもつめる】
年節と言葉
【地域からの文化力発信】
【宗教文化】三教堂を通じた文字文化の振興と次世代の育成
【文化人】さんかど in 関西 関西元氣文化圏で活躍する人々
天満宮の拝殿がステージ。草の根で本物文化を信
【風を呼ぼう、わが町に】登録有形文化財建造物の歩み
歴史を彩る蔵街道 地域の産業と文化財建造物
【日本の伝統美と技を守る人々】
中村勇二 俳句師
【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
火箱をかたどった縄文土器
【文化財をめぐるパートナーシップ】
BankART 1299

文化庁月報 6月号 (通巻441)

平成 17年 6月 25日 印刷・発行
編集—文化庁
〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1
発行—株式会社 ぎょうせい
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03 (3571) 2126
販売 03 (5349) 6666
URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社
●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株)ぎょうせい営業部広告課
電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)
©2005 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

知識の宝庫、文化の殿堂「博物館」の全容を収録!

全国博物館総覧

財団法人 日本博物館協会/編集

加除式・B5判・全4巻・定価42,000円税込

全国の博物館、美術館、資料館、記念館、動物園、水族館等3,000余を紹介した博物館ガイドブック。各館の紹介では、外観写真、交通案内図を収録するとともに、住所、電話番号、開館時間、観覧所要時間、入場料、休館日、施設、沿革・概要、所蔵品・展示内容、事業、アドバイスを事項ごとに解説。

わが国初の「展示」に関する総合事典!

展示学事典

日本展示学会「展示学事典」編集委員会/編集

B5判・定価10,500円税込

展示場の構成、展示機器の開発等のハード面から情報伝達のためのシナリオ作成法等のソフト面にいたるまで、そのノウハウをわかりやすく編集。我が国初の展示に関する情報知識を満載した総合事典。

21世紀の地域博物館の在り方を探る!

地域博物館への提言

討論・地域文化と博物館

川添 登/監修 日本展示学会 展示学講座実行委員会/編集

A5判・定価2,800円税込

各地に建設された博物館・美術館等文化施設を、町おこしの拠点として有効活用していくための極意とは? 企画立案、計画推進、建築、開館の際における各種「展示」手法を紹介しながら討論形式で解説・提言。



株式会社 ぎょうせい
〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
TEL03-5349-6666/FAX03-5349-6677
URL: http://www.gyosei.co.jp

美術館・博物館チケットプレゼント
今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、
A 京都国立近代美術館
【小林古徑展】3組 (ベア)
B 国立西洋美術館
【ドレスデン国立美術館展】
3組 (ベア)
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、7月1日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。
*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

<お詫びと訂正>
本誌平成17年5月号掲載の特集記事「地域文化で日本を元気にしよう!」文化審議会文化政策部会報告書のうち、11頁3段16行目の「春日井市」は「春日市」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。